

タイトル：2021 年度 教育セミナー（第 17 回）

日時：2021 年 9 月 16 日（木）～19 日（日）

オンライン開催

ポスター発表

「カイロの街区における相互扶助の意義の変遷：伝統的街区ガマリーヤ地区を事例に」

阿部優子（上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科）

私は、今回初めて本セミナーに参加しました。所属の大学を離れて、AA 研のような研究所が主催するセミナーに参加すること自体が初めてだったので緊張もしましたが、多くの学びを得ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

4 日間のプログラムを通して、自分の研究とは異なる分野の研究発表やセミナーを受けて感じたのは、中東・イスラーム地域研究の広がりです。私は大学院では、地域研究専攻に所属しており、東南アジアやアフリカ、ラテンアメリカなど他地域を研究対象とする先生方からご指導いただき、またそうした地域を対象とする院生とともにゼミなどの授業を受けてきました。その中で他分野を専門とする研究者と話をする際に自分自身の位置づけを明確にする重要性を学び、人類学で中東研究を行う者として自分自身の位置づけをしてきました。しかしながら本セミナーに参加したことが、さらに中東・イスラーム地域研究のなかでの自分の研究の位置づけに対して意識的になる契機となりました。研究を進めていく上では、異なる分野の研究者の方との議論も重要であると認識しているので、今後も専門分野の学習を進めるだけでなく中東・イスラーム地域全体になるべく広くアンテナを張って勉強していきたいと思いました。

私は、プログラム 2 日目にポスター発表をさせていただきました。今回が私にとってポスター発表を行う初めての試みだったこともあり、準備の段階から 1 枚のスライドに情報をまとめること、他分野の研究者に簡潔に研究内容を伝えることの大変さを実感しました。しかしながら、こうした発表機会があったことで自身の研究をポスターのような形で実際にまとめてみるきっかけを得ることができたので発表の申し込みをして良かったと感じています。当日は講師の先生方や異なる研究分野を専攻する院生の皆さんから様々な視点からコメントをいただくことができ、大変勉強になりました。今回の発表でご指摘いただいたことは、修士論文の執筆やその後の研究に活かしていきたいと思います。

また本セミナーで、他大学の院生の皆さんと交流することができたことも非常に貴重な経験となりました。研究内容に関するだけでなく、院生としての研究生活や新型コロナウイルス蔓延以前に渡航した際の現地での経験談等についても情報共有ができ、良い刺激を受けました。このような機会はなかなかなく、今後の研究のモチベーションにも繋がりました。セミナー終了後も連絡を取って、切磋琢磨しあえるような院生の仲間に所属の大学を越えて出会うことができ、大変嬉しく思います。

最後になりましたが、本セミナーを準備から当日に至るまで企画・運営して下さった先生方、千葉様をはじめスタッフの皆さんに深く感謝申し上げます。そして参加者の院生の皆さん4日間本当にありがとうございました。